

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	モスピラン粒剤
会社	日本曹達株式会社
住所	〒100-7010 東京都千代田区丸の内二丁目 7 番 2 号
担当部門	農業化学品事業部普及部
電話番号	03-4212-9655
FAX 番号	03-4212-9676
緊急連絡先情報	農業化学品事業部普及部
電話番号	03-4212-9655
夜間緊急連絡先	高岡工場 R C 推進部/警備室（夜間・休日）
電話番号	0766-26-0255
SDS 作成日	1995 年 09 月 22 日
改訂日	2025 年 09 月 16 日 (14 版)
推奨用途	農薬
使用上の制限	推奨用途以外への使用は禁止する

2. 危険有害性の要約

ラベル要素

絵表示 (GHS JP)	: 該当なし
注意喚起語 (GHS JP)	: 該当なし
危険有害性 (GHS JP)	: 該当なし
注意書き (GHS JP)	: 該当なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

化学名	濃度 (%)	化学式 (上書き)	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジ ル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセ トアミジン	2.0	C10H11Cl N4	(5)-6415	8-(1)-2355	135410-20-7
タルク	10	H2Mg3O12 Si4	-	-	14807-96-6

パラフィンワックス及び炭化水素ワックス	5.73	CxHy	-	-	8002-74-2
含水非晶質二酸化ケイ素	5.0	0. Si	(1)-548	なし(公表化学物質扱い)	112926-00-8

《その他》

CAS No. 企業秘密のため記載せず。

含有量 残分

化審法 適用外又は既存化学物質

安衛法 適用外又は既存化学物質

《(E)-N1-[(6-クロロ-3-ヒ°リシ°ル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン の別名》

アセタミプリド

4. 応急措置

応急措置

- 吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合： 多量の水と石鹸で洗うこと。
汚染された衣類を脱ぐこと。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
- 眼に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合： 口をすすぐこと。
気分が悪いときは医師に連絡すること。

医師に対する特別な注意事項

- その他の医学的アドバイスまたは治療： 対症的に治療すること。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤： 水噴霧、泡消火剤、乾燥粉末消火剤、二酸化炭素
- 使ってはならない消火剤： 情報なし。
- 火災危険性： 燃焼によって有毒ガスを生成する。
- 爆発の危険： 直接に爆発する危険は全くない。
- 火災時の危険有害性分解生成物： 有毒な煙を放出する可能性がある。
- 消火方法： 火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。
周辺火災の場合、速やかに容器を安全な場所に移す。
移動できない場合、容器に放水し、冷却する。
呼吸器の保護を含め、適切な保護装置を使用せず、火災現場に入らない。
風上から近づく。
- 消火を行う者の保護： 有毒な煙を放出する可能性がある。

自給式呼吸器および防護服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置

- ： 詳細については、第 8 項の「ばく露防止及び保護措置」を参照。
- 眼、皮膚、衣類につけないこと。
- 十分な換気を確保する。
- 風上から近づく。
- 本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
- 汚染エリアは標識を設けて区画し、部外者の立ち入りを禁止する。
- 粉じん又はミストを吸入しないこと。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項

- ： 環境への放出を避けること。
- 排水溝または水路への侵入を防ぐ。
- 本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法

- ： 漏出物は掃くまたはシャベルですくって適切な容器に封じ込め廃棄に備える。

浄化方法

- ： 多量の水で洗い流す／希釈する。
- 環境への大規模放出を避ける。排水溝や河川に流さない。
- 本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。

二次災害の防止策

- ： 炎や火花の禁止。発火源をすべて断つ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ： データなし

安全取扱注意事項

- ： 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 眼、皮膚、衣類につけないこと。
- 粉塵を吸入しないこと。
- 取扱い後はよく手、顔 を洗うこと。
- 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
- 使用前に取扱説明書を入手すること。
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 作業場における製品の放出を避けるため、または最小限にするため、技術的に必要なあらゆる措置をとる。
- 取り扱う製品数は必要最小限にし、ばく露使用者の人数を最小限に抑える。
- ： より詳細な情報については、第 10 項の「安定性と反応性」を参照。
- ： 作業服と外出着とを分ける。個別に洗う。

接触回避

衛生対策

管理番号：N3-6146101

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
製品取扱い後には必ず手を洗う。

保管

- 安全な保管条件
- ： 火の気のない場所で保管する。
 - 施錠して保管すること。
 - 換気の良い場所で保管すること。
 - 容器を密閉しておくこと。
 - 強酸および強力な酸化剤から離して保管する。
- 安全な容器包装材料
- ： データなし
- 技術的対策
- ： 涼しくて、よく換気された場所で、熱から離して保存する。
- 容器包装材料
- ： 製品は必ず元の容器と同じ素材の容器に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

タルク (14807-96-6)	
日本 - ばく露限界値 (日本産業衛生学会)	
現地名	タルク (滑石) # Talc
許容濃度	4 mg/m ³ 石綿繊維、結晶質シリカを含まず (総粉塵)、暫定値 1 mg/m ³ 石綿繊維、結晶質シリカを含まず (吸入性粉塵)、暫定値
特記事項 (JP)	石綿繊維含有製品：発がん性分類 1
規則参照	許容濃度等の勧告 (2023 年度) 産衛誌 65 巻

- 設備対策
- ： 作業所の十分な換気を確保する、取扱い場所の近くに、シャワー・洗眼器を設置する。

保護具

- 呼吸用保護具
- ： 防塵マスク、[換気が不十分な場合]呼吸用保護具を着用すること。
- 手の保護具
- ： PVC 製保護手袋、ゴム製の保護手袋
- 眼の保護具
- ： ゴーグル
- 皮膚及び身体の保護具
- ： 長袖を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態
- ： 固体
- 形状
- ： 細粒
- 色
- ： 淡灰色
- 臭い
- ： データなし
- pH
- ： データなし
- 融点
- ： データなし
- 凝固点
- ： データなし
- 沸点
- ： データなし
- 引火点
- ： データなし

自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
可燃性	: データなし
蒸気圧	: データなし
相対密度	: データなし
密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
かさ密度	: 0.85 - 1.15 (農薬公定検査法)
溶解度	: 水: 溶解しないが、徐々に有効成分が溶け出す。
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	: データなし
爆発限界 (vol %)	: データなし
爆発限界 (g/m ³)	: 粉塵爆発性なし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: 粒径分布: 710 - 2000 μ m

10. 安定性及び反応性

反応性	: 情報なし。
化学的安定性	: 通常の使用条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 情報なし。
避けるべき条件	: 直射日光。熱。高温。
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 燃焼によって次のものを生成する：一酸化炭素。二酸化炭素。窒素酸化物 (NOx)。塩化水素。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 区分に該当しない
急性毒性 (経皮)	: 区分に該当しない
急性毒性 (吸入)	: 区分に該当しない(分類対象外) (気体) 区分に該当しない(分類対象外) (蒸気) 分類できない (粉じん、ミスト)

モスピラン粒剤	
LD50 経口 ラット	> 5000 mg/kg (♂♀)
LD50 経口	4523 mg/kg (マウス、♂) 5179 mg/kg (マウス、♀)
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg (♂♀)
(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)	
LD50 経口 ラット	217 mg/kg (♂)、146mg/kg (♀)
LD50 経口	198 mg/kg (♀)、184mg/kg (♀) (マウス)
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg (♂♀)
LC50 吸入 - ラット	> 0.29 mg/l/4h

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ヒドロキシ)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)	
LC50 吸入 - ラット (粉じん / ミスト)	> 1.15 mg/l/4h (♂♀)
タルク (14807-96-6)	
LD50 経口	5000 mg/kg
パラフィンワックス及び炭化水素ワックス (8002-74-2)	
LD50 経口	5000 mg/kg
LD50 経皮	3600 mg/kg
含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)	
LD50 経口	5110 mg/kg
LD50 経皮	5000 mg/kg

皮膚腐食性/皮膚刺激性 : ウサギ皮膚刺激性なし
区分に該当しない

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ヒドロキシ)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)	
皮膚腐食性/刺激性	刺激性なし (ウサギ)

タルク (14807-96-6)	
皮膚腐食性/刺激性	データ不足のため分類できない。なお、ボランティア 5 名に本物質を 3 日間閉塞適用した結果、刺激性はみられなかった (DFGOT vol. 22 (2006)) との情報があるが、それ以上の記載はなく詳細不明である。

パラフィンワックス及び炭化水素ワックス (8002-74-2)	
皮膚腐食性/刺激性	ウサギを用いた Draize 法による 2 試験において、24 時間適用で「not irritating」と「slightly irritating」の結果があり (何れも IUCLID (2000))、また 20 人のボランティアでの皮膚刺激性試験の結果、1 人にわずかな紅斑が認められた以外、他の 19 人は刺激性を示さなかったとの報告がある (IUCLID (2000))。以上の結果に基づき、区分外とした。

含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)	
皮膚腐食性/刺激性	ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (OECD TG 404) において、沈降シリカ (Sident9) を適用した結果、刺激性はみられなかったとの報告 (SIDS (2006)、ECETOC JACC (2006)) や、沈降シリカ (SIPERNAT) をウサギに 24 時間適用した試験において、いずれも刺激性はみられなかったとの報告がある (SIDS (2006)、ECETOC JACC (2006))。また、ウサギにシリカゲル (Syloid 244) を 24 時間適用した結果、刺激性はみられなかったとの報告がある (SIDS (2006))。以上から、区分外とした。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : ウサギ眼刺激性なし
区分に該当しない

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ヒドロキシ)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)	
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	刺激性なし (ウサギ)
タルク (14807-96-6)	
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	データ不足のため分類できない。

パラフィンワックス及び炭化水素ワックス (8002-74-2)

眼に対する重篤な損傷性/刺激性

ウサギを用いた Draize 法類似試験において、軽度 (slightly) の刺激性 (IUCLID (2000)) およびウサギの標準 Draize 試験において軽度 (mild) の記述 (RTECS (2008); Journal of the American College of Toxicology. 3 (3), 43, 1984) に基づき、区分 2B とした。

含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)

眼に対する重篤な損傷性/刺激性

ウサギを用いた眼刺激性試験 (OECD TG 405) において、沈降シリカ (Sident9) を適用した結果、軽度の結膜発赤がみられたが回復性を示したとの報告がある (SIDS (2006)、ECETOC JACC (2006))。また、沈降シリカをウサギに適用した試験の報告が複数あり、眼刺激性はみられなかったとの報告や、軽度の結膜刺激がみられたが回復したとの報告がある (SIDS (2006))。以上から、区分 2B とした。

呼吸器感作性

： 分類できない

皮膚感作性

： モルモットにおいて皮膚感作を起こさない。

区分に該当しない

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)

皮膚感作性

感作性なし (モルモット)

タルク (14807-96-6)

呼吸器感作性

データ不足のため分類できない。

皮膚感作性

データ不足のため分類できない。なお、本物質が広範囲の化粧品で使用され、ボランティア実験が実施されているが、本物質がアレルギーを示すとの報告がこれまでにないとの記載 (DFGOT vol. 22 (2006)) や、ゴム手袋に起因するラテックスアレルギーは、タルクではなく粉末状の澱粉に起因することが確認されているとの記載 (DFGOT vol. 22 (2006)) がある。

パラフィンワックス及び炭化水素ワックス (8002-74-2)

呼吸器感作性

データなし。

皮膚感作性

データなし。

含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)

呼吸器感作性

データ不足のため分類できない。

皮膚感作性

データ不足のため分類できない。

生殖細胞変異原性

： 分類できない

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)

生殖細胞変異原性

Ames 試験：陰性、染色体異常試験：陽性、小核試験：陰性 (マウス)、UDS 試験：陰性、Rec-Assay：陰性

タルク (14807-96-6)

生殖細胞変異原性

分類ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivo では、ラット骨髓細胞を用いた染色体異常試験で陰性、優性致死試験で陰性と報告されている (IARC (1987)、ACGIH (7th, 2010)、DFGOT vol. 22 (2006))。In vitro では、細菌を用いた復帰突然変異試験、ヒト培養細胞を用いた染色体異常試験、ラット培養細胞を用いた姉妹染色分体交換試験及び不定期 DNA 合成試験のいずれも陰性である (IARC 42 (1987)、ACGIH (7th, 2010)、DFGOT vol. 22 (2006))。

パラフィンワックス及び炭化水素ワックス (8002-74-2)

生殖細胞変異原性

in vivo 試験のデータがなく分類できないとした。なお、Ames 試験 (in vitro 変異原性試験) で陰性の結果がある (農薬安全情報 (1992))。

含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)

生殖細胞変異原性

ガイドランスの改訂により区分外が選択できなくなったため、分類できないとした。すなわち、in vivo では、経口投与あるいは吸入ばく露によるラットの優性致死試験、遺伝子突然変異試験、染色体異常試験でいずれも陰性 (SIDS (2006))、in vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験、染色体異常試験で陰性、哺乳類培養細胞の小核試験であいまいな結果である (SIDS (2006))。

発がん性

： 分類できない

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)

発がん性

陰性 (ラット、マウス)

タルク (14807-96-6)

発がん性

初期の疫学研究ではアスベスト繊維を含有しないタルク (石英を含有) を職業的に吸入ばく露したヒトのコホート研究、5 件中 4 件中中皮腫は認められず、タルクへの累積ばく露量が高レベルのコホート研究 2 件における高ばく露群の肺腫瘍発生率は全 5 件のデータを統合した肺腫瘍発生率より低値であった (IARC 93 (2010))。一方、1 件のコホート研究報告で、亜集団に肺腫瘍発生率の増加がみられたが、この集団はラドンと石英に共ばく露され、コホート全体では肺腫瘍の発生率増加はみられていない (IARC 93 (2010))。また、コホート内症例対照研究においても、タルク粉じんへの累積吸入ばく露量の増加に伴う肺がんリスクの増加傾向は示されなかった (IARC 93 (2010))。実験動物でも、ラット、又はマウスに粒子径の小さい (粒子径 $10\mu\text{m}$ 以下) 高純度 (繊維成分及びアスベスト様無機物を含まない) のタルクを 2 年間以上吸入ばく露 (6 又は 18 mg/m^3) した発がん性試験において、いずれの種でも肺腫瘍の発生率増加はなく、特にラットでは肺に非腫瘍性変化が顕著に認められる濃度 (18 mg/m^3) においても、肺腫瘍の発生率の増加はみられていない (IARC 93 (2010)、ACGIH (7th, 2010)、NTP TR421 (1993))。一方、欧米ではタルクをベースとしたボディーパウダーがナプキンや避妊用具を介して女性の会陰部、生殖器官へ適用されてきた。IARC は全体で 1 件の前向きコホート研究、及び 19 件の症例対照研究を総括し、化粧用タルクの使用と卵巣がんのリスクの増加に関して、相対リスクの増加が多くの報告で示され、局所適用したタルクが卵巣へ逆行的に移行するという証拠は健康な女性では低い、外科手術等によりクリアランス機能が低下した女性では逆行性移行の証拠が一定程度あるとして、タルク含有ボディーパウダーの会陰部使用による卵巣がんのリスク増加には限定的な証拠があると結論した (IARC 93 (2010))。以上より、IARC はアスベスト、及びアスベスト様繊維を含有しないタルクについて、吸入経路ではグループ 3 に、タルクをベースとしたボディーパウダーの会陰部適用ではグループ 2B に分類した (IARC 93 (2010))。ACGIH は IARC による発がん性評価結果を踏まえつつも、発がん性分類は職業ばく露のみに限定して A4 に分類した (ACGIH (7th, 2010))。本評価では IARC の「タルクベースの製品の会陰部適用でのグループ 2B」は極めて限定された本物質の特異な用途及び適用経路における発がん性分類結果と判断し、本項の分類のための総合評価の観点からはこれを除外することとした。その上で、IARC の吸入経路での分類結果、並びに ACGIH の分類結果が妥当と判断し、本項はアスベスト (又はアスベスト様繊維、無機物) を含有しないタルクに対して、「分類できない」とした。

パラフィンワックス及び炭化水素ワックス (8002-74-2)

発がん性	ラットに 2 年間経口投与した試験で、腫瘍の発生率は対照群と比較して差は認められなかったとの報告があり、長期毒性試験における、実験動物に対するパラフィン是非発がん性であるとの記述がある (JECFA (1993))。またウサギ・マウスの 2 年間経皮試験では、発がん性は認められていない (EHC20 (1982)) との報告もある。しかし、経口投与による試験では動物 1 種のための試験データしかなく、区分外とするには疑義が残るため「分類できない」とした。
------	---

含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)

発がん性	本物質は合成型非晶質シリカに分類される (IARC 68 (1997))。ヒトでの合成型非晶質シリカばく露による発がん性情報はない。しかし、IARC は非晶質シリカ全体 (本物質以外に珪藻土、生物起源のシリカ繊維も含む) に対し、発がん性に関する証拠はヒトで不十分、実験動物で合成型非晶質シリカに対する証拠も不十分 (後述) として、非晶質シリカ全体に対して発がん性分類を「グループ 3」とした (IARC 68 (1997))。よって、本物質も IARC の評価に従い、分類できないとした。なお、非晶質シリカに関するヒト発がん性関連の情報としては、生物起源の非晶質シリカ繊維にばく露された 3 つの地域社会を対象とした症例対照研究において、シリカばく露と中皮腫発生との間に相関はみられなかったとの報告がある (IARC 68 (1997))。一方、実験動物では、ラットに本物質又は酸化第二鉄を単独、或いは両者の 1:1 混合物を各々 500 mg/匹の用量で 1 年間吸入ばく露した結果、生存率は対照群と投与各群との間で大差はなく、10 ヶ月以上の生存例における肺腫瘍 (腺腫、がん) 発生率は対照群で 7.9~9.6% (5/53~5/52)、本物質単独投与群で 21.3% (13/61)、酸化第二鉄単独投与群で 32.7% (17/52)、混合物投与群で 19.3% (12/62) であった (IARC 68 (1997))。一方、経口経路による発がん性関連情報として、合成非晶質のシリカゲル (Syloid 244) をラット又はマウスに 2 年間混餌投与した結果、50,000 ppm までの用量で、主要臓器に腫瘍性変化、非腫瘍性変化ともにみられなかった (ECETOC JACC (2006)、IARC 68 (1997)) との記述がある。
IARC グループ	分類できない

生殖毒性：分類できない

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)

生殖毒性	繁殖毒性：陰性 (ラット)、催奇形性：陰性 (ラット、ウサギ)
------	---------------------------------

タルク (14807-96-6)

生殖毒性	データ不足のため分類できない。なお、タルク (成分情報非公開) をラット、又はマウスに 1,600 mg/kg/day で妊娠 6-15 日に、ウサギに 900 mg/kg/day で妊娠 6-18 日に経口投与した試験で、催奇形性は陰性であったとの記述がある (DFGOT vol. 22 (2006)、ACGIH (7th, 2010))。
------	--

パラフィンワックス及び炭化水素ワックス (8002-74-2)

生殖毒性	データなし。
------	--------

含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)

生殖毒性	ヒトの生殖影響に関する情報はない。実験動物では合成非晶質シリカゲル (Syloid 244) をラット、マウス、ハムスター、及びウサギの各妊娠雌動物の器官形成期に強制経口投与した催奇形性試験において、いずれの動物種でも、1,340~1,600 mg/kg/day の用量を投与しても、母動物毒性、胎児毒性、催奇形性のいずれも認められなかったとの報告がある (ECETOC JACC (2006))。しかしながら、性機能、及び生殖能への本物質投与による影響については試験報告がなく、本項はデータ不足のため「分類できない」とした。
------	---

特定標的臓器毒性(単回ばく露)：分類できない

パラフィンワックス及び炭化水素ワックス (8002-74-2)

特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ワックスヒュームは眼・鼻・のどに軽度 (mild) の刺激性 (PATTY5th (2001)) に基づき、区分 3 (気道刺激性) とした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	呼吸器への刺激のおそれ

含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)

特定標的臓器毒性(単回ばく露)	シリカゲル (Syloid 244) は気道刺激性があるとの報告 (SIDS (2006)、ECETOC JACC (2006)) から、区分 3 (気道刺激性) とした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	呼吸器への刺激のおそれ

特定標的臓器毒性(反復ばく露)：データなし

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)	慢性毒性試験：NOAEL (イヌ、飼料混入投与)：20 mg/kg bw/day (♂)、21 mg/kg bw/day (♀) (1 年)、NOAEL (ラット、飼料混入投与)：7.1 mg/kg bw/day (♂)、8.8 mg/kg bw/day (♀) (2 年)
-----------------	---

パラフィンワックス及び炭化水素ワックス (8002-74-2)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラット 90 日間経口投与試験 (0, 160, 1600 mg/kg/day) において、赤血球と血小板の減少、肝細胞の空包化、肉芽腫の発達、壊死、腸間膜リンパ節における肉芽腫の発現、細胞の過形成、頸部リンパ節における肉芽腫の発現、心臓僧坊帽弁の基部におけるリンパ球様細胞浸透の増加 (JECFA 1056 (2003)) などの所見が用量依存的に見られたが、区分 2 のガイダンス値以下で試験が行われていないためデータ不足により分類できない。
-----------------	---

含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトにおいては、本物質のダストに平均 8.5 年間ばく露された労働者の肺機能及び胸部レントゲン検査に有害影響はみられなかったとの報告がある (ACGIH (7th, 2001)、ECETOC JACC (2006)、SIDS (2006)、DFGOT vol. 2 (1991))。実験動物については、ラット、モルモット、ウサギに本物質 126 mg/m ³ をラットでは 1 年間、モルモット及びウサギでは 2 年間吸入ばく露した試験において、肺線維症の発症はみられておらず、反応はマクロファージ蓄積と細網線維の軽度増殖に限定されたとの報告がある (ACGIH (7th, 2001))。マウスを用いた 21 ヶ月間混餌投与試験、ラットを用いた 24 ヶ月間混餌投与試験において毒性影響はみられていない (ECETOC JACC (2006))。サル、ラット、モルモットに本物質 15 mg/m ³ を 12～18 ヶ月間吸入ばく露した試験において、肺の単球細胞増加、細網線維の増加がみられたとの報告がある (DFGOT vol. 2 (1991))。以上のようにヒトにおいて影響はみられず、実験動物においては、吸入経路において軽微な影響のみみられ、経口経路では影響はみられていない。したがって、分類できないとした。
-----------------	---

誤えん有害性：分類できない

タルク (14807-96-6)

誤えん有害性	データ不足のため分類できない。
--------	-----------------

パラフィンワックス及び炭化水素ワックス (8002-74-2)	
誤えん有害性	データなし。

含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期（急性）：区分に該当しない

水生環境有害性 長期（慢性）：区分に該当しない

モスピラン粒剤	
LC50 - 魚 [1]	> 1000 mg/l (コイ、96hr)
EC50 - 甲殻類 [1]	> 1000 mg/l (ミジンコ、48hr)

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ヒドロキシ)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)	
LC50 - 魚 [1]	> 100 mg/l (ニジマス、96hr)
LC50 - 魚 [2]	> 100 mg/l (コイ、96hr)
EC50 - 甲殻類 [1]	49.8 mg/l (ミジンコ、48hr)
ErC50 藻類	> 98.3 mg/l (72hr)

含水非晶質二酸化ケイ素 (112926-00-8)	
LC50 - 魚 [1]	10000 mg/l

残留性・分解性

モスピラン粒剤	
残留性・分解性	データなし

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ヒドロキシ)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)	
BOD (ThOD の割合)	分解率 (BOD) : 1.3% (4 週間)

生体蓄積性

モスピラン粒剤	
生体蓄積性	データなし

(E)-N1-[(6-クロロ-3-ヒドロキシ)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.80 (25℃)

土壌中の移動性

モスピラン粒剤	
土壌中の移動性	データなし
(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン (135410-20-7)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.80 (25℃)

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性	: 分類できない
その他の有害な影響	: 追加情報なし

13. 廃棄上の注意

推奨製品/梱包処分	: 固体廃棄物については適用法令を遵守する。 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
廃棄方法	: 許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物／容器を廃棄する。
残余廃棄物	: 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。 許可を受けた人/許可を受けた廃棄物処理業者、またはその他の適切な廃棄物処理技術を用いて処理する。
汚染容器及び包装	: 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。
地域の廃棄規則	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
推奨下水処理	: 管轄当局の規制に準拠して廃棄する。
追加情報	: 空の容器を再利用しない。

14. 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	: 非危険物
航空規制情報	: 非危険物
国連番号	: なし
正式輸送品名	: なし
海洋汚染物質	: 非該当
国内規制	
海上規制情報	: 非危険物
航空規制情報	: 非危険物
特別な輸送上の注意	: 製品は慎重に取り扱う。 飛散を避ける。 衝撃／衝突を避ける。 直射日光を避けて保管する。 水(湿った空気)との接触を避ける。
その他の情報	: 補足情報なし。

15. 適用法令

国内法令

労働安全衛生法

： 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条の 2 第 1 項、施行令第 18 条の 2 第 2 号～第 3 号、安衛則第 34 条の 2 別表第 2）
トランス-N-（6-クロロ-3-ピリジルメチル）-N'-シア
アノ-N-メチルアセトアミジン（別名アセタミプリド）（別表の
番号：1327）

固形パラフィン（別表の番号：583）

名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第 57 条第 1 項、施行令第 18 条第 2 号～第 3 号、安衛則第 30 条別表第 2）

トランス-N-（6-クロロ-3-ピリジルメチル）-N'-シア
アノ-N-メチルアセトアミジン（別名アセタミプリド）

固形パラフィン

【改正後 令和 8 年 4 月 1 日以降】

名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条の 2 第 1 項、施行令第 18 条の 2 第 2 号～第 3 号、安衛則第 34 条の 2 別表第 2）

トランス-N-（6-クロロ-3-ピリジルメチル）-N'-シア
アノ-N-メチルアセトアミジン（別名アセタミプリド）（別表の
番号：1327）

固形パラフィン（別表の番号：583）

非晶質シリカ（シリカゲル及び沈降シリカに限る。）（別表の
番号：1568）

【改正後 令和 8 年 4 月 1 日以降】

名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第 57 条第 1 項、施行令第 18 条第 2 号～第 3 号、安衛則第 30 条別表第 2）

トランス-N-（6-クロロ-3-ピリジルメチル）-N'-シア
アノ-N-メチルアセトアミジン（別名アセタミプリド）

固形パラフィン

非晶質シリカ（シリカゲル及び沈降シリカに限る。）

毒物及び劇物取締法

： 非該当

消防法

： 非該当

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR
法)

： 第 1 種指定化学物質（法第 2 条第 2 項、施行令第 1 条別表第 1）

トランス-N-（6-クロロ-3-ピリジルメチル）-N'-シア
アノ-N-メチルアセトアミジン（別名アセタミプリド）（管理番
号：617）（2.0%）

農薬取締法

： 該当

16. その他の情報

記載内容は現時点で入手できた資料、情報データに基づいて作成していますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には用途・用法に適した安全対策を実施の上、利用してください。

中毒したときの緊急連絡先

公益財団法人 日本中毒情報センター（事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る）

中毒 110 番 365 日 24 時間対応
一般市民専用電話（情報料無料）

管理番号：N3-6146101

(大 阪) 072-727-2499

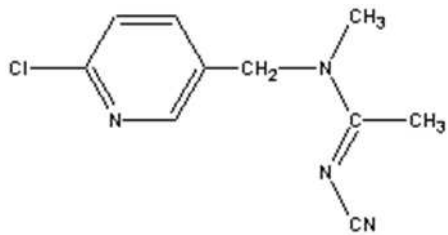
(つくば) 029-852-9999

医療機関専用有料電話 (1 件 2000 円)

(大 阪) 072-726-9923

(つくば) 029-851-9999

医療機関の方が一般市民専用電話を使用された場合も、
情報料 1 件につき 2,000 円を徴収します。



CAS 番号：135410-20-7

化学名：(E)-N1-[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N2-シアノ-N1-メチルアセトアミジン